

『保育園における児童虐待予防について』

相模原市健康福祉局こども育成部南こども家庭相談課 担当課長 渡辺 令子氏

参加人数：公立 52 人 私立 105 人

◇感想◇ （アンケート130枚 結果 左の数字は人数）

- 19・日々の保育の中でしっかりと子どもや保護者の様子を見て気づく事が子どもを守るために必要な事であると改めて感じた。
- 10・保育士としてアンテナをしっかりと立て、気づき、変だな？と感じたことは自信をもって発信できるようにしていきたいです。
- 6・気づきをそのままにせず、周りの人と協力・共有していきたいと感じることができた。記録も大事。
- 5・実際に現場に出ている方の話で分かりやすかった。
- 4・まだ身近に感じたことはないが、もしも遭遇してしまったら今日の事を思い返して落ち着いて行動していきたいと思った。
- 10・応援・味方という言葉の大切さを学んだ。
- 4・「育児の応援団」素敵なお言葉だと思いました。心がけていきたいです。
- 6・日頃から保護者の方とコミュニケーションをとり、信頼関係を築きながら何かあった時はすぐに変化に気づけるようにしていきたいと思いました。
- 2・近くで虐待を感じることはないのですが、気づいた時には通告の義務だという事をテレビ等でも見るようになったし、事件も多くなったという事はすごくたくさんあるのだろうと思います。
- 3・「保育園に連れてきてくれて有難う」と言える保育士でありたいと思いました。「登園してくれて有難う」はとても良い言葉だと響きました。
- 2・ちょっとした変化が見られた時にはよく見ていき、保護者も支えていけたらと思いました。
- 3・園内でも疑わしいと感じた時にどうしたら良いかがとてもわかりやすかった。
- 2・普段関わっている保護者だからこそまさか・・・とってしまう事もあるけれど、子どもの事を思って変化に気づいた時には疑うことも大切であると改めて感じました。
- 2・早期発見に心掛け、親子の心のケアに励んでいきたいと思います。
- 2・改めて虐待が怖いと感じた。
- 2・実際に目の前で保育している子どもを想像しながら学ばせて頂きました。
- 2・保育士としての存在が重要であると感じた。
- 2・児童虐待について、予防のこと等を改めて知ることが出来ました。
- 2・園内での情報発信はできているのに、保護者への声掛けを促されてもどうしてよいか躊躇することがあってできませんでした。どんなことでもよいから声をかけていきたいと思いました。
- 2・「保育勸奨」など今日改めて知ることもあり、とても勉強になった。

- ・「自分のクラスは大丈夫」と思っていた部分があったが、虐待が多い世の中、いつ・どこで自分が対応するかわからないので、きちんと支援できるように応援団として向き合いたい。
- ・“おかしいな”と感じることもあり、なんで嘔むのだろう、叩いてしまうのだろうなど悩むこともあります。保護者を信用することも大事だが、「〇〇なのじゃないか」と予測することも大事だと思いました。職員同士で相談していきたい。
- ・早期発見のポイントを共有していきたい。  
保育をしていて、早番であると昨日から朝の様子の変化に気づきやすいですが、遅く保育に入ると「あれ？うーんどうかなあ」と思うケースが多く、職員同士での情報共有が密にできていないと発見につながる事が出来ないと思う。
- ・虐待の疑いに気づいた時点で南こども家庭相談課に相談していいのだなと思った。“様子を見る”という判断が予防や発見を遅らせてしまう判断ミスになる事もあると思えたからです。
- ・身近なテーマ・内容であり、悩むところであったので、改めて意識しなおす良い機会となりました。
- ・子どもと保護者の為に大切なことを再認識できました。
- ・虐待はすぐそこにあるかもしれないので、よい学びになりました。
- ・保育は虐待予防に限らず、全てにおいて“観察力”“気づきの力”が大切だと改めて感じました。
- ・虐待予防として努めなければならないのはわかりつつも、通告をする＝保護者を悪者にしてしまうのではないかという思いから、なかなか言葉にするのは難しいと思った。
- ・理想通りにいかなかったり、こども家庭相談課とのやりとりもスムーズにいかなかったりと現実には厳しいことも多いと感じています。
- ・難しい保護者の対応に寄り添う事に困難さを感じています。
- ・保育園で抱えている数あるケースの支援、日々の保育の中で精いっぱいやっていると思います。職員のモチベーションを保つことが大変です。
- ・子どもの笑顔を守るため、また努力していこうと思います。子どもと共に保護者を育てたいと思う日々でもありますが、親を変えることは難しく、声掛けの方法や聞く姿勢もまた学び、スキルを上げていきたいと思っています。
- ・虐待について専門的な知識を得ることができて良かったです。
- ・こども家庭相談課をはじめとし、サポートしてもらえる機関がたくさんあり、「変だな」のサインに気づいたら勇気をもって相談したいと感じました。
- ・目に見えるケースや、重いケースでないと通告はできないと思っていたが、ちょっとした気づきでも通告の対象になることを知る機会となり、良かった。今現在、園の中でも通告のケースになりうる家庭があるのでは？と感じた。
- ・「要保護児童対策地域協議会」で助けられている親子がいる。現代の子育ては応援してくれている人がいっぱいいるのですね。保育所の仕事の中で多くの方が助け合いの気持ちをもって世の中のより良き未来の為に働いている事を知れてよかったです。

- ・保育園は虐待を受けている子どもたちにとっては安心・安全である場所であり、保護者の方が連れてきた時には「ありがとう」と感謝の気持ちを持つことで1つの予防になること、私たちの気づきになることを学ぶことが出来ました。
- ・「来てくれてありがとう」と伝えている保護者へ、引き続きそれを伝えていけるように心がけていきたいです。
- ・一番心に残ったことは「保育園に登園させたことに感謝し、労う」という言葉でした。日頃そのような言葉をかけることができなかつたので、またその言葉をかけられた側の認めてもらえた、この人は見ていてくれたという気持ちを大切に、子どもだけでなく、保護者の安全基地になれるよう努力していきたいと思いました。
- ・「うちの子可愛くないんだよね」と発言する保護者もいて、園での良いところを伝えてもなかなか響いてくれないのが不安ですが、「応援しているよ」「味方だよ」と一言言ってあげるだけでも力になってあげられるのかなと思いました。
- ・保護者への向き合い方について本当に“誠実さ”が必要だと感じています。
- ・保護者の味方という点について肝に銘じなければいけないと思いました。
- ・子どもの笑顔を保障し、又母を応援し、笑顔いっぱいにしてあげたいと思います。
- ・「様子を見る」が自分の安心という言葉も印象的で気を付けていきたいと思いました。
- ・虐待の疑いがあった場合、保育園にいる間しか子どもの安全を見守ることができず、進学してしまった場合不安で仕方なかった事を覚えています。保育園を離れても安全で過ごせるように周りの環境を作っていく大切さを改めて感じました。
- ・虐待まではいかないが子育てが上手くできない親も多く、保育園にいる時間が安心な時間として過ごせるようにしたい。
- ・視診時にしっかりと子どもと向き合って保護者と話すべきだと改めて感じた。
- ・視診で傷などを良く見ていなかったの、見ていくようにしたい。
- ・今難しいケースを抱えています、対応の方法（プラス気持ち）を考えていこうと反省しました。
- ・通告することに対して少ししやすくなったような気がする。応援団の一人としてこれからも頑張りたい。
- ・園外でのサポートもしてもらえるのかなと思います。
- ・保護者への対応の仕方を詳しく知れたらもっと良かったです。
- ・ケース会議のような実践的な事例で話し合えたらなと思いました。
- ・もう少し具体的な事例を知りたかった。
- ・子どもの姿に変わりはないという事にとっても何かを感じるがありました。保育士ではありませんが、大事にしたいと思います。
- ・もっと参加者がいればよかったですね。せっかくの機会なのに残念です。
- ・心に響いた。
- ・講義だけでなく、自分の考えや、他人の考えを共有できる時間もあり、貴重な経験になりました。

## 2・わかりやすかった

- ・資料とお話が連携しており、わかりやすかった。
  - ・カラーのパワーポイントも見やすかったです
  - ・こども家庭相談課の仕事について少し知れて良かった。
  - ・こども家庭相談課の職員の対応も安心につながっていて、いつも連絡してよかったと感じています。有難うございます。
  - ・何回も研修を受けさせていただいていますが、その度に新しいことを勉強でき、助かっています。
  - ・虐待予防の大切さを感じました。保育園で何ができるか、改めて考えていきたいと思いました。
  - ・虐待についてよく理解できました。手に絵を描いたら虐待、髪型が目立つものだと虐待と何でもかんでも虐待だと言われ悩んでいました。基本的な考え方が良く分かり今後の保育に活かせます。
  - ・事例が分りやすく、勉強になりました。子どもの身なりが整っていないなくても「きっとお母さんが忙しいからだよ」と判断する職員もいるが、まずは「気になる→気付き→様子を観る（たまたま？虐待？）」疑うことも大切だと思った。そして、迅速な対応をすることが大切と学んだ。
  - ・虐待が疑われる時は、まず気付きが大切であるということ。そこには支援を必要とする子どものパターンも多く聞きますが、専門機関の対応がなかなかできないことにも不安を感じたりします。そんな時、子どもとの距離間が近い私たち保育士が発信することの大切さを感じました。
  - ・虐待をしている親が悪いとは考えず、何がそうさせてしまったのか、辛かったのかも考え、寄り添っていくことを覚えておきたいです。
  - ・実際に保育している時に、もしかしてと思う子どもの姿があることがありました。少しずつ遠慮しながらでも応援し寄り添う事が必要であった。
  - ・園の中で気になる子がいる為、大変身近に感じ、まさかではなく、もしかしてと考えなくてはいけないと感じました。虐待は、親子の苦しみを共有してあげることが大切とも感じました。
  - ・自分のクラスでも少し虐待の疑いがあるかもという子がいるので、気にかけて様子を観ていきたい。
  - ・虐待を疑い、児童相談所に相談したことがありましたが、親御さんとその後、関係を拗らせてしまいました。それから、相談に躊躇してしまう思いがあったのですが、このお話を聞いて、再度恐れてはいけないと思い直しました。
  - ・園内に虐待を受けて入所した子、保護者が居り、様々な具体的な園での様子を思い浮かべながら、ケースと先生のお話を結びつけながら聞くことができました。虐待予防という考えがあまり馴染んでいなかったのですが、ケースの対応策を自分で考えることによって、とても現実味がわきました。
  - ・普段何気なく行っている視診が、子どもの命に繋がるのだと、改めて感じた。今回の研修は、園長、副園長、キャリアのある先輩保育士にも聞いて欲しかったです。
  - ・虐待が疑われるときには、子どもの安全を守るために迅速に対応する事が大切という事を改めて学びました。
- 以前2歳児女児の腕にタバコ？と疑われる円形の火傷がみられ保護者の対応も曖昧だった事がありました。その後、園長と相談し、相談課に連絡し、即日来園して頂いたことがありました。その後も色々ありましたが、結果今は大事に至らず卒園しました。
- 今後も引続き、保育士としてできるだけ子どもの力になれるようまた、若い先生方にも

その大切さを伝えて行きたいと思います。

- 保育推奨の児が園に複数入園しています。慣れてしまい、「あれ？」と気づけない。情もあり、園で世話してしまいがちと感じる事もあります。毎日子どもと共に保護者に会う保育園では保護者の養育力を上げるには限界があり、こども家庭相談課、児童相談所のお力をもっと借りたいと思います。
- 今まで気になるなと思う児、家庭環境に問題を抱えている児に関することがあります。まだ新人で自分がどうしたら良いのか、このかわり方で良いのか悩んでいたことがあります。今回の研修の中で愛着関係を育み、子どもが安心安全の場を作っていくことが私たちの役割なのかなと少し自信がもてました。
- 本日は予防する事がテーマでしたが、当園ではネグレクトのケースで長引いており、状況がなかなか好転せず改善が見られない事も多くあります。長期化していて、支援者の訪問でも改善がみられない場合、支援についての連絡の事例を具体例でいかして頂けると良いと思います。
- 虐待の話を手近に感じました。保育園がこんなに最前線なのかと思うと、とても複雑な気持ちです。こども家庭相談課や児童相談課は少し怖い存在のように感じていましたが、子育て支援応援団なのだというのは新たな発見でした。
- 日々の保育の中で、気になる事は多々あります。今日の講義はとても参考になりました。私の子が通っている園でも気になる親子がいます。とりあえず園の先生に声をかけてみようと思います。よいきっかけになりました。
- 虐待と発達障害はつながることも多いのでしょうか？あれ？と思うと、どちらにも原因を感じている。不安定な子どもが多い現実、時間と人的な余裕がない現実、どうしたら良いのでしょうか。いろいろなケースに気づくけれど、やはりこのごろは数が多いです。
- 児童虐待予防についての考え、対応の仕方、連絡先等わかりやすくご説明いただき学べる事が多かった。「一人で抱え込まない」他の機関や職員と連携して対応していく大切さが分かった。
- 日頃の保育を振り返りながら考え学ぶことができました。現園はまだいないですが、前園はたくさんいました。地域差が大きいのかなと思いました。
- 笑顔で接し、子どもが笑顔で過ごせるようにすることが虐待予防や虐待してしまう保護者の不安を軽減することに繋がるということが分かりました。笑顔や居心地のよさは常に意識していることではありますが、その意義は予想以上に大きいと感じました。  
虐待している親も、問題行動を起こしてしまう子どもも、まず頭ごなしに否定するのではなく、「なぜそうしてしまうのだろう？」と想像してみることで、その子（親）を理解できるとのことですが、これは虐待が疑われるケースにも応用できそうだと感じました。
- 自分の園では、関係のない話ではないなと思いました。きちんと子供や保護者に関わり、日々の視診や親とのコミュニケーションを丁寧に行おうと思います。

◇今後の講座◇

2・発達障害について（保育方法・指導法）

- ・大豆生田氏
- ・若月芳浩氏
- ・グレーゾーンの子どもへの対応、保護者への関わり、声のかけ方
- ・療育に関する内容、具体的に対応
- ・職員間のありかた、望ましい関係
- ・虐待の事例を知りたい。
- ・児童虐待防止で具体的な対応を学びたい。
- ・通報後予想される保護者との関係性の悪化に対し、保育士、園に対するケア等あればお聞きしたいです。
- ・実践できる本日の様々な内容
- ・食物アレルギーについて
- ・保育現場に役立つ教材づくり
- ・身体あそび
- ・体育あそび 居関達彦さん
- ・乳児向けの運動遊び、ふれあいあそび
- ・体の機能を高める運動
- ・リスクマネジメント
- ・具体的な保育園での1日の流れや工夫している点・改善点・あそび等を学ばせてほしい。
- ・保護者の気持ちに寄り添うことはできるのですが、病気（心の）を持っている方への対応等難しすぎて困っています。日常の中でのヒントになる研修が受けられたら嬉しいです。
- ・子どもの発達について
- ・子育てについて